

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成30年3月14日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470203245		
法人名	有限会社 美泉		
事業所名	グループホーム よってきんさい草津		
所在地	〒733-0863 広島市西区草津南1丁目6番12号 (電話) 082-501-4622		
自己評価作成日	平成30年2月1日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=3470203245-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成30年3月12日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

民家改造型のグループホームです。隣には広い公園があり、歩行訓練や気分転換を兼ね毎日散歩に出かけています。町内会に加入し、行事にも積極的に参加しており、とんど祭りや餅つき・夏祭り等地域の方と交流する機会が多く、恵まれた環境です。利用者様と共に過ごしながらいをくみ取り、安心して過ごして頂けるよう又、一人ひとりのできる事を大切に生き活きと過ごして頂けるよう努めています。お花見などの行事を計画し、皆さん楽しんで頂いています。同グループ全体で医師・看護師と連携し看取りを行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所の隣には公園があり、天気が良ければほぼ毎日散歩し、時には近所のコンビニストアにおやつを買いに行くこともある。また、利用者が人と交流し緊張感を持つことが大事であると考え、外部の美容院に出かけている。食事は職員が手作りして提供しているが、野菜の下準備や盛り付けなどを利用者と一緒にしている。鍋料理や手作りおやつ、おせち料理や行事食、時には外出に出かけるなど食事を楽しむ工夫をしている。この地域は住民の団結力が強く、地域の高齢者や一人暮らしをサポートする「てつだい隊」があり、運営推進会議にも出席するなど地域の町内会との結びつきが強い。町内会の夏祭り・秋祭り・餅つき・とんどなどの行事には利用者が参加し楽しんでいる。利用者・家族の要望があれば看取りを行う方針であり、法人の看護師が協力し今までに多数の看取りを行っている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	有限会社美泉開設当初よりの運営理念をもとに、年間目標を立て日々のケアに取り組んでいる。	会社理念を基に事業所は、長期目標と短期目標からなる年間目標を立て取り組んでいる。年度末には反省会を開き、実施状況を評価している。また、会社理念は申し送り時に唱和し職員と共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に加入し、地域の行事に参加したり公園の清掃出かけている。	町内会に加入し、毎月町内清掃に協力している。夏祭り・秋祭り・餅つき・とんどや敬老会といった町内会行事には、利用者が参加し、地域住民との交流を楽しんでいる。利用者の誕生会に町内会会長や町内の「てつだい隊長」が参加することもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議や町内会の総会で質問や相談を受け、お答えしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	会議では、ホームでの様子や活動状況をお伝えしている。町内会の行事などを教えて頂き、参加の計画を立てている。	運営推進会議は定期的開催されている。会議には、地域住民代表として町内会長・「てつだい隊長」、利用者が参加し意見交換している。「ハチの巣」に関する情報を出席者から教えてもらい、散歩のコースを変更した。今後は、区生活課職員に出席を依頼し利用者の生活に関して意見交換したいと考えている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	生活保護受給者の為に生活課と連絡を取っている。2ユニット化に向けて連絡を取り合っている。	運営推進会議には地域包括支援センター職員が参加し、意見交換している。また区生活課職員が2か月に1度、生活保護受給者の為に定期的に来所し、生活に関する相談・協議を行っている。市からは各種研修会の案内情報を得て職員が参加している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束廃止宣言を掲げ、職員がお互いに注意し合いケアに取り組んでいる。日中は玄関の施錠をせず天気の良い日には、開放している。</p>	<p>「身体拘束廃止宣言」を玄関に掲示し、職員と取り組んでいる。玄関は施錠せず利用者は自由に出入りできる。ベッド柵は、利用者の転落防止や布団の脱落防止の為に2本設定し、「食食用エプロン」も身体拘束に該当すると考え使用していない。「ダメよ」は行動抑制と考え言わないように徹底している。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>全職員が研修を受け学んでいる。お互いに注意し虐待防止に努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>社内研修や会議・ミーティング等で学んでいる。必要時は、上司に報告し支援につなげている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時には、重事項説明書・契約書により説明を行い、理解し納得して頂き署名・捺印を頂いている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>玄関に苦情箱を設置している。窓口も明確にし掲示している。面会等を利用し、要望をお聞きしている。意見があった場合、現場の意見も聞き管理者会議で話し合い、利用者や家族にお返ししている。</p>	<p>玄関には苦情箱を設置しているが意見は入ってない。家族が面会に来られたり、敬老会や花見などの事業所行事に参加された際に、家族の意見を聞いている。家族の要望により、利用者の衣服を間違えないように名前を明記し管理するようにした。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>申し送りやミーティング等で意見を聞いている。管理者会議で検討し、業務に反映させている。</p>	<p>申し送りやミーティングの際に職員の意見を聞き、職員は、法人代表に電話で相談することもある。職員の意見により、早出・遅出勤務の開始時間を職員が効率よく働けるよう変更し、職員の食費について協議し改訂した。また職員の要望により、処遇改善手当を手渡しとした。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>申告書があり、職員は希望や意見を伝えている。行事の担当を与えたり、資格取得に合わせて、お祝いをするなど向上心を持って働けるよう努めている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>社内外の研修の機会があり、資格取得のための援助もされている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>市や協会主催の研修や勉強会に参加し、同業者との交流を図っている。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>入居前に訪問を行い、詳しく話を聞いている。入居後は関わりを多く持ち、本人のペースを崩さず生活に慣れて頂くように努力している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>入居前面接で家族の困りごと、要望を聞き入居後も面会時などにホームでの様子を伝え、不安解消に努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>本人や家族から話を聞き、その時に一番必要なサービスを検討し提供できるよう努めている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>共に生活するという思いを持ち、食事作りや掃除など一緒に行っている。作業後は感謝の気持ちを伝えている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>面会時には自室でゆっくりできる様配慮している。ホームでの様子を伝え、時には相談しながら、共に支えていく関係を築いている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>本人の希望に添って、自宅や美容院に同行している。通院も希望があれば同行している。</p>	<p>利用者の要望により自宅訪問や今まで利用していた美容院、診療所に職員が同行し馴染みの関係が継続するように支援している。面会は一応20時までとしているが、ご家族のご都合に合わせて柔軟に対応している。また職員は毎月ご家族に手紙を送っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	リビングの席は相性を考慮し決めている。ソファは場所を別にし、一人で過ごせる場所も作っている。交流が難しい方には、職員が間に入り孤立しないように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退居されてからも、家族からの相談や困りごとがある時は相談にのり、できる限りの支援に努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の生活の中で希望や思いを伺い、アセスメントシプランにつなげている。思いを聞き取ることが困難な場合には、仕草や表情から思いをくみ取り、話し合いをしている。	日常生活の中で把握した利用者の意向は、申し送り時に報告したり「申し送りノート」に記入し情報を共有している。帰宅願望が強い利用者に対して、家族から電話をかけてもらったり、気持ちが落ち着くまで職員が付き添うこともある。利用者の思いは計画作成者が把握し記録している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前に訪問を行い、本人や家族から話を伺い把握に努めている。入居後も気づきや情報を記録している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の様子を生活日誌に記録し、職員間で把握の共有に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>本人、家族、関係者より情報を収集し、話し合いながらプランを作成している。</p>	<p>利用者毎に担当者を決めている。モニタリングは、計画作成者が担当者に意見を聞きまとめている。その後、計画作成者・職員・利用者が話し合いをして、ケアプランの見直しを行っている。また医師の意見も反映している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日々の様子を個々の生活日誌に記録し、職員同士情報を共有しながら、実践やケアプランの見直しに活かしている。一方的な記録にならないように会話や対応の結果など記録するように心がけている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>状況に応じて話し合いを行いサービスの検討をしている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域の一員として、町内会行事や散歩、買い物に出かけ交流を楽しんでいる。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>入居前の係りつけ医に受診して頂いている。希望がない場合やかかりつけ医がない場合は家庭医にお願いしている。必要時には、他院を紹介して頂き適切な治療が受けられるよう支援している。</p>	<p>入所前の主治医をかかりつけ医とする利用者もいるが、事業所では、別に協力医を「家庭医」として定期的に往診して利用者全員の健康状態を把握している。利用者が体調不良の際には、まず看護師に連絡し夜間も含め対応している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>体調不良時には看護師に報告・相談している。必要時医師に連絡し適切な対応が出来る様支援している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には職員が交代で面会に行っている。面会時看護師や医師から経過を聞き早期退院に向けて取り組んでいる。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>入居時に重度化した場合について家族に説明している。入居後状態変化時には医師や家族、本人と話し合い、意向を確認し取り組んでいる。</p>	<p>利用者・家族の要望があれば看取りを行う方針である。入所時に「重度化した際の指針」を説明している。重度化した際には、家族の意向を確認し、それに沿って対応しているが、必要があれば同意書を提出してもらうこともある。今までに多くの看取り事例があり、法人全体で看護師が協力して対応している。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>マニュアルを作成し研修を行い、実践できるよう努めている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>年2回訓練を実施している。運営推進会議や会議で話、協力をお願いしている。</p>	<p>年2回災害訓練を行い、利用者も実際に避難場所である近隣公園まで避難している。避難に係る時間を計測し、次回の訓練にフィードバックしている。今後は、消防署の仲介により町内会と話し合いを行い、地域の協力を得る予定である。法人として災害に備えて食料の備蓄をしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個々の性格や人格を尊重し、明るく優しい態度で接している。馴れ馴れしい言葉かけや、反対にかしこまり過ぎないよう気を付けている。	法人として「人格尊重・プライバシー」の研修を行っている。上から目線の対応をせず、ため口を使わない、「ちょっと待って」と言わずに利用者本位の対応をするように職員を指導している。退職後も利用者の個人情報漏らさないように徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	着たい服や飲みたいもの、食べたいもの。行きたいところなど毎日の生活の中で自分で決めて頂くようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一日の流れは決まっているが、その中でも本人のペースに合わせながら過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	着たい服を一緒に選んだり、お化粧品して頂いたりしている。男性は毎日髭剃りをし、外出時に帽子をかぶっていただくなど、その方に合わせたおしゃれの支援をしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者様の力に合わせ、できる事には好みに聞き、献立に取り入れている。片付けもできる方が出来ない方の食器を下げるなどされている。	週間献立は決まっているが、利用者の要望を反映して献立を変更し食事を提供している。おせち料理や七草粥の季節料理、手作りおやつを提供し、外食にも出かけている。利用者の体調に柔軟に対応できるように予備食品を用意している。野菜の下準備・盛り付け・味付けを利用者と一緒に行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>摂取量や水分量を把握し、個々の生活日誌に記録している。飲んだり食べたり時間が合わない方は、延食し召し上がっていただいたり、嫌いなものは代替している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後口腔ケアをしている。嗽が出来ない方にはハミングットを使用しきれいにしている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄パターンを把握しトイレ誘導を行っている。夜間はポータブルトイレなどを使用し、できるだけ気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	<p>利用者毎に排泄パターンを把握し「排泄パターンに基づくトイレ誘導時間」を決めて、トイレに誘導している。利用者の状況に応じて、夜間のみ転倒防止のためにポータブルトイレを使用する利用者もいる。入院から戻った利用者がオムツからパンツになった例がある。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>身体を動かすことを心掛け、水分や繊維のあるおかずを進めている。朝、牛乳や白湯を飲んで頂き、便秘の予防や改善に努めている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>日曜日以外はお風呂を沸かしている。週3回は入浴して頂いている。季節に合わせてしょうぶ湯や柚子湯を楽しんで頂いている。</p>	<p>日曜日以外はお風呂を準備し、週3回以上入浴するようにしている。要望があれば毎日の入浴も可能である。入浴が嫌いな利用者に関しては、寒い時期は、脱衣所を暖かくしたり、入浴剤を入れるなどの工夫をしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。</p>	<p>食後体調や希望に合わせ、午 睡して頂いている。夜間の安眠 につながるよう、日中は散歩 や作業等にて身体をしっかりと 動かして頂いている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。</p>	<p>薬の説明書や医療記録で確認し 把握している。臨時薬などは、 申し送りノートに記入し、皆で 共有している。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。</p>	<p>得意な事、できる事が継続でき るよう一人ひとりの能力に応じ て支援している。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出かけ られるように支援している。</p>	<p>体調や天候に合わせて毎日散歩 に出かけている。時には家族と 外食など楽しまれている。季節 に合わせてお花見などの行事を 楽しんで頂いている。</p>	<p>天気が良ければ、介護度が高い 利用者もほぼ毎日散歩し、時 には近所のコンビニストアに利 用者の好きなお菓子を買いに行 くこともある。年に1回程度、 花見などの遠出外出を行い、時 々ドライブに出かけることもある。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。</p>	<p>預り金として、家族よりお金を 預かっている。買い物や旅行時 に本人に渡し使っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>電話機の子機を使用し、自室でゆっくりお話しして頂いている。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>換気に努め不快なおいがこもらないように気を付けている。季節に合わせて壁画や花を飾り季節を感じて頂いている。冬は廊下とリビングとの温度差があるが、扉を少し開け廊下との温度差をできるだけなくすよう気を付けている。</p>	<p>利用者が不快にならないように換気に留意して、窓を開けるようにしている。季節の花や、利用者と一緒に作った壁画を飾り、季節を感じてもらうように配慮している。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>独りになれるよう、ソファやテーブルの位置を工夫している。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>自宅で使用していたタンスや鏡台、写真など本人や家族と相談し持参して頂いている。タンスなどの位置は相談しながら決め、本人の好みの居室づくりを心掛けている。</p>	<p>自宅で使用していたタンス・テーブル・花瓶などを持ち込み、愛用していた座布団やベッドカバーを居室で使用する利用者もいる。利用者は居心地よく過ごせるように工夫している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>出来るところは段差の解消に努めている。トイレ内や廊下には手すりをつけ少しでも自分の力で動けるよう支援している。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームよってきんさい草津

作成日 平成30年4月25日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害対策の強化	地域との相互協力ができる	運営推進会議で話し合う	1年
			災害時の安全な避難ができる	水害・地震時の非難訓練を強化する	1年
2	4	運営推進会議の出席者に変化がない	運営推進会議の出席者を多様化する	出入りのお店屋さん、町内会、生活課、近隣の方々に意見や思いを聴かせて頂く	1年
3					
4					
5					
6					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。